

2014年春闘

統一要求日 3月13日(木)~20日(木)

回答指定日 3月28日(金)

農協労働者

北海道単位農業協同組合・農業共済組合
労働組合連合会 (道農協労連) 機関紙
毎月1日発行 1部30円
札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル3階
Tel. 011 (232) 0676
Fax. 011 (232) 2355
URL: http://donokyororen.jp
E-mail: mail@donokyororen.jp
発行責任者 九村 信吾



道農協労連結成50周年

新たな峰に向かって前進しよう

単組からの報告



宮口 佑介 委員長

一月十八日、道農協労連は札幌市内で新春学習討論集会と結成五十周年記念祝賀会を開催し、全道から二十九単組一〇三名が参加しました。

年末の教訓を活かす

討論集会では、単組からの年末闘争の取り組み報告が行われ、本部からは九村信吾書記長が春闘への構えなどを提起。世論の追い風を活かし、ベースアップ獲得のために内部討議と団体交渉の準備に十分な時間をかけて基本を重視して取り組むよう強調しました。



桜庭 正大 委員長

昨年、天候不良の影響で農協収支の見通しは良くなかったが、年末一時金要求は妥協せず前年同額で行った。結果的には満額回答され、期末手当も下げずに要求する。

石狩支部(札幌)



斎藤 博行 委員長



きたみらい労組 伊藤 勇也 書記長

昨年、国道十二号線と二七五号線沿道でT P P反対の宣伝を実施した。農家の営農安定は農協職員的生活にも関連すること。職員の意識改革と若い人に多いあきらめの気持ちを払拭したい。

全道の農協・共済に働く 全ての者の抛り所として

中央執行委員長 西 秀行

昨今の国民不在の政治の強まり、特に日本を戦争する国に変えていこうという危険な流れに強い危機感を抱いています。政府は憲法九条を変えざるための下地作りともいえるイラク戦争支持と自衛隊派遣を行い、特定秘密保護法を成立させました。さらに、集団的自衛権の憲法解釈変更、武器輸出三

原則の見直しを進めようとしています。これらは今の私たちの危機であると同時に、次代を担う子孫の危機でもあります。また、T P P問題も国民への説明もありません。昨年七月に交渉参加を強行しました。昨年中の妥協は避けられましたが、引き続き予断を許さない状況です。全国

の仲間と連帯して反対運動を広げていきます。農業・農協つぶしの動きや農業共済組合の役割を縮小させる動きも出てきています。狙いは、農協事業を大企業の儲けの草刈り場にすることにあります。全中と経団連との連携や全共連と東京海上日動との事業提携など、農協システム自ら協同組合を否定する

動きに歯止めが必要で、一方、私たちの職場の中も大きく変化しています。広域合併、総人件費抑制の労務管理が強化され、十年間で道内の農協は六十減少しました。職員も非正規職員が全体の三割を占めるまでになってきました。賃金、退職金は引き下げられ、長時間・過密労働で

健康を害する労働者が多発し、職場はブラック企業化する危険な状況にあります。農業共済組合でも、五団体への組織再編、公務員準拠を口実とした賃金の抑え込みが強められています。しかし、こうした厳しさの中にあっても道農協労連の仲間には、雇用とくらしを守ることに全力を挙げ、その時々で貴重な成果を獲得してきました。今ある労働条件は過去のたたかいの積み重ねの結果

私たちに期待される役割

祝賀会の記念講演では、全国農民連・白石淳一会長(峰延農協組合員)が「農家組合員から農協で働く皆さんに期待すること」と題して講演し、「農協・農業共済組合は農業生産や農地を守り、地域で大きな役割を果たしている。職員の皆さんは地域社会を熟知しており、そのことは農協・農業共済組合の強みでもある。T P P問題など国民的課題と一緒に取り組んで行こう」と連帯の言葉が寄せられました。

来賓の顧問弁護士、四十周年以後の歴代委員長からもお祝いと今後の運動への期待を込めたご挨拶を頂き、参加者は五十年の歩みを振り返って今後いっその飛躍を誓い合いました。

非正規雇用の問題、労働災害の問題など労働組合の存在意義を問われる場面が増えていく。農協・農業共済組合が地域に必要なものとして認められるには第三者のチェックを受けることになる。労働組合もそうした役割を果たしコンプライアンスを守らせていく。これを念頭に運動のさらなる前進を期待する。

二〇〇二〜二〇〇三年度 中央執行委員長 柳原 由史様

労働組合は労働者のよりどころ。労組の目的、目標とするところに確信を持つことが団結力の基礎になる。自分たちの労働組合の歴史を紐解いて、今の労働条件は先輩が勝ち取ってきたことであり、未来につながっていくことだと再認識してほしい。

好喜の様(道農協労連書記局)・五年度、小竹政志様(札内農協)・〇六(〇七年度)伊藤護様(湧別町農協)・〇八(〇九年度)安達利幸様(きたみらい農協)・二〇(一一年度)メッセーじ

北農連労協議長・筒井一郎様

柳原 由史様

川村 俊紀様

川村 俊紀様

柳原 由史様

川村 俊紀様

川村 俊紀様

川村 俊紀様

川村 俊紀様

川村 俊紀様

焦点

昨年来、JR北海道の事故や不祥事が連日報道されています。正直、列車を利用することを躊躇してしまいます。原因として組織の意思疎通や労使関係、気候や多くの路線が赤字など北海道特有の問題もありますが、「儲からない部門」への徹底的にカネをかけない「合理化」と、ミスを正直に言えない職場風土があるのではないのでしょうか。数値改ざんが問題になっている保険部門は直接お金を稼ぎませんが、安全の要になる部門です。気温で変化するレールの伸縮、崖崩れなど危険地帯のチェックなど、機械だけで行われるものではありませぬ。「経験」が重要ですが、長年の人員不足で技術が継承されていない問題を抱えています。現場は本社に訴えていたといいますが、一方で職場の不祥事を本社へ知られては評価が悪くなることを恐れ、検査数値を改ざんしたとも言われています。こうした問題はJRだけでなく、私達の職場でも、目先の利益だけを追って本当に必要な部門への投資を怠っていないでしょうか。人事考課制度が息苦しい職場を作っていないでしょうか。JRだけの問題とせず自らの職場を点検しなければなりません。